ジョイントコンサート'96

女声合唱団アガパンサス

京都混声合唱団

とき：1996年 11月10日（日） 開場：午後2時 開演：午後2時30分

ところ：京都市呉竹文化センター（京阪丹波橋駅前）

主催：京都混声合唱団

T.takumi

京混ホームページ http://www-cr.scphys.kyoto-u.ac.jp/member/iwamuro/KMC/kmc1.html

ご　挨　拶

京都混声合唱団

秋の深まりとともに、京の山々もいっそう、彩り豊かになってまいりました。

この紅葉にいっそう、色を添えるように、今日は、横浜から女声コーラス〔アガパンサス〕のみなさんをお招きし、競演できることになりました。横浜(ハマ)の潮風のかおりが、錦織りなす秋いろの京都(みやこ)の風情に出会う様を、お聴きください。

私ども、京都混声合唱団はフランス詩集の微妙なうつろいと、ウィーンと東洋を舞台にしたオペレッタをお届けします。定期演奏会では京都混声合唱団はオーケストラの伴奏で比較的大きな構成の作品を取り上げることが多いのですが、定期公演の合間には、今日の演奏会のように混声合唱の特性を活かして、女声と男声のかけあいや、からみのある曲などにも取り組んでいます。

秋の午後、艶やかな声に彩られた演奏をお楽しみいただき、気持ち豊かなひとときを、お過ごしください。

アガパンサス

京都混声合唱団からジョイントコンサートのお誘いを受けたのは今年の春でした。

私達、女声合唱団どうしのジョイントは何度か経験しておりますが混声合唱団とのジョイントは初めての体験です。紅葉の一番美しい京都でしかも創立70周年の由緒ある合唱団とご一緒に歌う楽しみ、喜びを胸に秘めて今日迄練習をつんでまいりました。

女声合唱というのはある面では非常にピュアな存在です。しかしきれいにハモるという音楽上のピュアな面では残念ながら混声合唱には一歩ゆずります。

本日この晴れの舞台で私達は女声合唱の持つ繊細さ、華やかさ、優雅さを存分に発揮出来ましたら最高と思っております。

このような貴重な場を与えて下さいました京都混声合唱団の皆様、本当にありがとうございます。心から御礼申し上げます。本日は貴合唱団の胸をお借りするつもりで一生懸命歌わせていただきます。

プログラム

第1部　アガパンサス

女声合唱曲集「春のマドリガル」より　作曲　服部　公一

春のマドリガル（作詞　薩摩　　忠）
初めてのキス（作詞　阪田　寛夫）
そんなお婆さんならわるくない（作詞　安西　　均）
海のバラード（作詞　谷川俊太郎）
沈丁花のにおう道（作詞　高垣　　葵／きた・ひろし）
お薬師様（作詞　高村　健一／きた・ひろし）

指　揮　岡田　有弘
ピアノ　加来　洋子

第2部　京都混声合唱団

フランスの詩による合唱曲集「月下の一群」

小曲　訳詩　堀口　大學
輪踊り　作曲　南　　弘明
人の言うことを信じるな　編曲　中村　順一
海よ
秋の歌

指　揮　蔵田　裕行
ピアノ　宮北　昌子

―――――― 休　　憩 ――――――

第3部　アガパンサス

女声合唱とピアノのための小品集「ポケットの星」

ポケットの星　作詞　みつはしちかこ
あのとき　作曲　沼尻　竜典
麦わら帽子
待ちぶせ
春のうわさ
迷子の風船
みの虫のうた
銀のローソク

指　揮　岡田　有弘
ピアノ　加来　洋子

女声のためのシャンソネット「I（愛）」より

海辺の小さな町（作詞　中村千栄子）　作曲　湯山　　昭
くじらの子守唄（作詞　阪田　寛夫）
矢車草（作詞　名取　和彦）

第4部　京都混声合唱団

オペレッタ「微笑みの国」より　作曲　F. レハール

我々はスー・チョン殿下を待っている（テノール、合唱）
誰が私達の心に愛を送りこんだのだろう（ソプラノ、テノール、合唱）
君こそわが心のすべて（テノール）
わが故郷（ソプラノ、合唱）
夢に翼があるなら、夜会いましょう（合唱）
フィナーレ（ソプラノ、テノール、合唱）

指　揮　蔵田　裕行
ピアノ　宮北　昌子
ゴング　伊藤多美子
ソプラノ　日紫喜恵美
テノール　北村　敏則

第5部　合同演奏

風の子守歌

作詞　別役　　実
作曲　池辺晋一郎

指　揮　岡田　有弘
ピアノ　加来　洋子

ゴータムむらの

訳詩　谷川俊太郎
作曲　青島　広志

指　揮　蔵田　裕行
ピアノ　宮北　昌子

曲 目 解 説

第1部　「春のマドリガル」

ここに集めた11の女声合唱は肩のこらない、いわばプロムナード・コンサート用のプログラムとでも申したらよいでしょう。と曲集の序文に作曲家は述べている。この作曲者の言葉のように、ワルツあり、タンゴあり、ボレロあり、又谷川俊太郎の詩に作曲されたしっとりとした曲、日本情緒溢れる曲、と幅広い技法に支えられた楽しい曲が羅列されている。

第2部　「月下の一群」

『月下の一群』は、昭和52年広島の崇徳高校グリークラブの委嘱を受けた南弘明が、フランス近代詩の訳詩集から5篇を選んで作曲し、男声合唱曲集として誕生させたものである。昭和53年9月に同合唱団によって初演されて以降、数多くの男声合唱団に愛唱されている。男声合唱を経験したことのある者は誰でも、一度は歌ったことのある（少なくともどこかで耳にしたことがある）というほどの定番の曲集である。この曲集が混声合唱に編曲されたのは昭和61年のことで、作曲者の学生時代からの友人である中村順一の手によって見事に実現し、翌62年1月に東京の創大銀嶺合唱団によって初演された。こうして我々混声合唱団もこの名曲を演奏することができるようになったのである。

さて訳詩集『月下の一群』は、詩人であり翻訳家でもある堀口大學（1892～1981）が、少年時代に初めてフランス近代詩と出会ってから、「原作のポエジー（詩）をわがものに」したいがためだけに、ひたすら訳し続けた「十数年間の筆のすさ（遊）び」から、66家340篇にも及ぶ訳詩を選んで編んだものである。このとき彼はまだ若干31歳であったが、この訳詩集は昭和の日本詩壇に多大な影響を与えた。そして半世紀以上経た後、作曲家南弘明をも「作曲をしたい欲望」に駆り立てたのである。340篇の中から曲集『月下の一群』に選んだ5篇に関して、南弘明は「そのときの私の感度に特に敏感に反応した五つの詩を選んだ。いずれも青年らしい豊かな感受性、想像力に富んだものばかりで、これらによって私は青春を謳いあげようとした。」と記している。

青春に年齢制限はないように思う。幅広い年齢層からなる京混が歌いあげる「青春」を、一人でも多くの皆様に感じ取って頂ければ幸いである。

第３部　「ポケットの星」

初め、小組曲「小さな恋のものがたり」というタイトルで、1982年桐朋祭、高校合唱コンクールの自由曲として我が３年Ｂ組のために書かれたものです。── 中略 ── 結果は見事優勝。その翌年、この作品は曲の入れ替えを含めて大幅に改訂。── 中略 ──「桐朋学園大学合唱団」によって再演され、またも好評を得ました。それに気を良くした私はさらに改訂を重ね、昭和59年度の笹川賞に応募したところ幸運にも第１位を頂きこの作品は世に知られるようになりました。若手指揮者としても目覚ましい活躍を始めた沼尻竜典氏はこのように述べているが、みつはしちかこの個性的な詩を基に、溢れるような才能を駆使して一曲一曲は短いが変化に富んだ作曲がほどこされている。

女声のためのシャンソネット「Ｉ（愛）」

一風変った標題の“Ｉ”はもちろん“私”という意味で恋を知り愛に傷つき、自然との語らいのなかでさすらう女性の心を、小歌風にまとめてみました。と作曲者は記している。一夏の恋と別れの後の虚脱感を溢れるような旋律にのせて歌う「海辺の小さな町」。まるでデ・キリコの絵に出会ったような初めて聞くのだがあたかも昔、どこかで聞いた覚えがあるような錯覚さえ感じるノスタルジックな「くじらの子守唄」。爽やかな旋律と軽快なリズムに乗って歌われる「矢車草」、どの曲をとっても天性のメロディスト湯山昭の面目躍如といったところ。

第４部　「微笑みの国」

「微笑みの国」は「メリーウィドウ」と並んでレハールの作曲したオペレッタの代表作である。これほど甘美な音楽は他にないと思われる程の美しい曲が全編に散りばめられている。北京のスー・チョン殿下と結婚するために中国に渡ったウィーンの伯爵令嬢リーザは、一夫多妻制の中国の風習を容認することができず、お互い愛し合いながらも別れることになるという筋書き。本来はドイツ語だが、今回は英語版によっている。

プロフィール

指　揮　蔵田裕行（くらた　ひろゆき）

1956年京都市立音楽短期大学音楽科卒業。'61年東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。'65年同大学大学院音楽研究科修了。伊藤武雄、N.レーヴェ、中山悌一各氏に師事。ウィーン国立音楽大学オペラ科卒業、同オラトリオ科卒業。'68年帰国。'87年藤堂音楽賞受賞。現在、京都市立芸術大学教授、音楽学部長。関西二期会常任理事。日本シューベルト協会常任理事。

指　揮　岡田有弘（おかだ　ありひろ）

東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院オペラ科修了。イタリア留学。帰国後「愛の妙薬」「ラ・ボエーム」「魔笛」等に出演。又、日本の創作オペラ「修禅寺物語」「春琴抄」「死神」他多くの作品に主役として出演。合唱指揮の分野ではスーパーオペラ「海光」の総合指揮、「横浜・ボンベイコーラス交歓会」の指揮。又海外においても、ボンベイ市、バンクーバー市、その他パリ・ローザンヌ・ミノーリ（イタリア）の各都市やバチカン公国（ローマ法王謁見演奏会）等で指揮を行っている。現在、玉川大学、洗足学園大学各講師、日本オペラ協会会員、横浜シティオペラ副会長。

ソプラノ　日紫喜恵美（ひしき　えみ）

京都市立芸術大学音楽学部声楽専修卒業。同大学院修了。'88年日本モーツァルト音楽コンクール1位。'89年日本音楽コンクール第2位。ザルツブルグ・モーツァルテウム、ミュンヘン国立音楽大学に留学。'91年バルセロナ国際コンクール、コロラトゥーラソプラノ賞受賞。'92年第1回青山音楽賞受賞。'93年ベルギー国際コンクール第2位受賞。平成7年度京都市芸術新人賞受賞。R.クノール、R.グリスト、片山弘子、千田裕子、大西多恵、佐々木成子、蔵田裕行各氏に師事。関西二期会会員。

テノール　北村敏則（きたむら　としのり）

京都市立芸術大学音楽学部声楽専修卒業。同大学院修了。音楽学部賞及び大学院賞を受賞。佐々木成子、蔵田裕行各氏に師事。'90年ウィーンに留学。リートをE.ヴェルバ、宗教曲をK.エクヴィルツ、発声をA.ヴァルター女史の各氏に師事。'88年第2回日本シューベルト協会国際歌曲コンクール第1位受賞。聴衆審査特別賞受賞。'90年第6回ボルツァーノ歌曲コンクール第1位受賞。アダ・ヴェルバ賞受賞。'92年第1回青山音楽賞受賞。日本シューベルト協会同人。現在、京都市立芸術大学非常勤講師。

ピアノ　宮北昌子（みやきた　しょうこ）

京都市立芸術大学音楽学部ピアノ科専修卒業。ピアノを山田淳子、岩淵洋子、マックス・エッガーの各氏に、チェンバロを春山操氏に師事。ザルツブルグ・モーツァルテウム音楽院夏季国際音楽アカデミーに参加し、セルジオ・ペルティカローリ教授の講座を修了。アカデミーコンサートに出演。

ピアノ　加来洋子（かく　ようこ）

武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。松井明子氏、三津橋文子氏に師事。ソロ、デュオ活動及び声楽、合唱団の伴奏で、コンサートに出演するかたわら、後進の指導にあたっている。

ゴング　伊藤多美子（いとう　たみこ）

京都市立芸術大学音楽学部在学中。

京都混声合唱団

1926年、京都在住のプロの音楽家による合唱団として発足。戦時中一時休会したが、1945年に活動を再開し、この時からアマチュア合唱団としてスタートし、今日に至っている。団員の職業は会社員、自営業、教員、主婦、学生と多岐に渡り、合唱を愛する人ならだれでも入団できる。

長い団史のなかで定期演奏会を振り返ると、ヘンデル・バッハ・ハイドン・モーツァルトなどの古典曲から現代作曲家・邦人作曲家まで、宗教曲を中心に取り上げてきた。一方、夏の合宿を兼ねた小演奏旅行ではポピュラー曲など幅広いレパートリーを披露している。1991年より常任指揮者に京都市立芸術大学の蔵田裕行先生を迎え、またヴォイストレーナーとして同大学の三井ツヤ子先生を迎え、一層の技術向上に励んでいる。

アガパンサス

1984年9月、横浜市港南区に岡田有弘先生を常任指導者として発足。12年目を迎えた現在、団員数も30数名。30代から60代まで年齢層も厚い。演奏曲目は主に女声合唱曲集で中田喜直、萩原英彦、服部公一等の作品が多い。過去、単独コンサートを2回。中沢桂、岡村喬生、佐藤光政やデュークエイセスとのジョイントコンサート又、中田喜直とアガパンサスのステージを持つ。

毎年、県の合唱祭、横浜コーラルフェスト、区の音楽祭に参加。地元のステージにも度々招かれるなど幅広い活動を行っている。

アガパンサスとはギリシャ語でアガペサントス（愛の花）で小さな花が集まり一つの大輪となる。一人一人の歌声がひとつに響き大きなハーモニーとなることを願いネーミングしたものである。

京都混声合唱団

[illegible]

アガパンサス

[illegible]